

## 岐阜県総合医療センター新棟（小児医療センター）の概要

- 場 所：岐阜県総合医療センター敷地内 [岐阜市野一色4丁目6番1号]
- 敷地面積：920.78㎡
- 延床面積：4,816.18㎡
- 階 層：7階
- 概 要：重症心身障がい児のための入所病棟に加え、小児医療分野の専門性の高い診療、検査機能を充実させた新棟を整備
- 主な機能：
  - [1階] 障がい児診察室（1室）、小児用CT・MRを新設
  - [2階] 小児科外来診察室（7室→10室）移転、増設
  - [3・4階] 障がい児病棟「すこやか」（30床）の整備【医療型障害児入所施設】
  - [5階] 外来化学療法センター
  - [6階] 管理部門 [7階] 機械室
- 総事業費：約32.9億円
- 供用開始：平成28年3月

### ○新棟（小児医療センター）全景



## ○新棟建設の経緯

安心して子どもを産み育てることができる環境を確保するためには、出生から新生児期、乳幼児期、小児期にわたり子どもの健やかな成長を支えるとともに、小児救命救急医療や障がい児の療育に対応した子どものための総合的な医療の拠点が必要ですが、本県には小児医療を包括的に提供する医療機関がありませんでした。

そこで、県総合医療センターに重症心身障がい児のための入所病棟と小児科外来を備えた新棟（小児医療センター）を整備し、併せて病院本館にある、重篤な小児患者に対する救命救急医療機能も強化しました。

## ○ 新棟の整備に伴って強化される機能

### (1) 重症心身障がい児支援機能の新設

- ・重症心身障がい児施設「すこやか」（30床）を新設し、濃厚な医療的ケアを要する重症心身障がい児に対して専門的医療を実施
- ・障がい児診察室（1室）を新設

### (2) 小児専門分野の専門性の高い診療、検査機能を強化

- ・MR（3.0テスラ）の導入  
鮮明な画像（従来機で見えなかった脳の穿通枝などの血管の描出が可能）で精密な診断を実施
- ・CT（2×128列）の導入  
低被ばく（従来機の半分以下の線量）・短時間（従来機の半分以下の時間）の検査を実施
- ・小児科系診察室を7室から10室に増室

### (3) 重篤な小児患者に対する感染症対策と救命救急医療の強化

- ・主病を治療中に感染症を併発する小児が多いことから、主病を治療する妨げとなるような感染症を治療するため、小児感染症内科を県内で初めて開設
- ・本館の小児集中治療室（PICU）4床を平成27年7月から6床に増床
- ・本館の新生児集中治療室（NICU）、新生児治療回復室（GCU）及び慢性期集中治療室（CICU）におけるベッド間隔を現状の60～110センチから120センチ以上に拡張

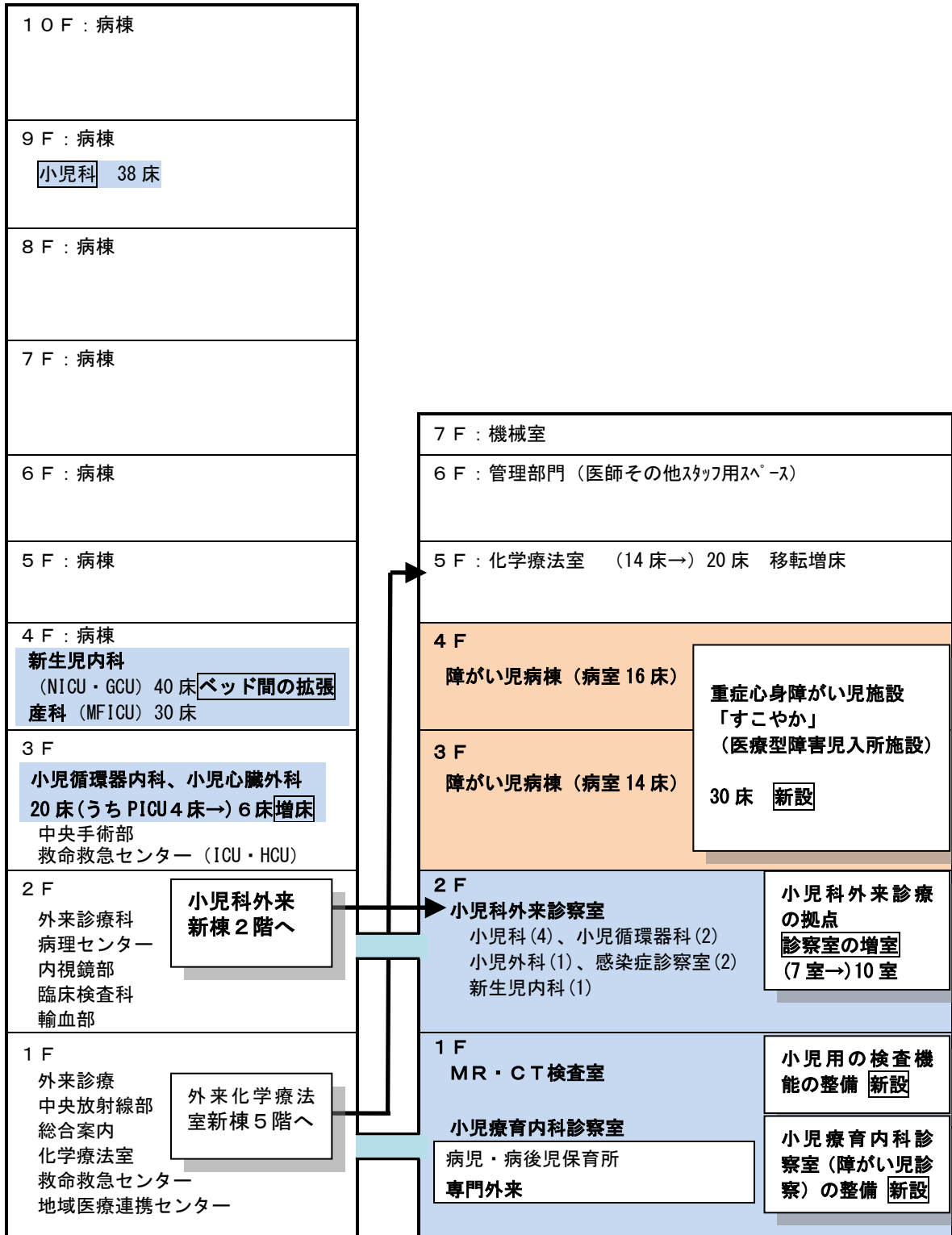
### (4) 外来化学療法センターの移転増床

- ・患者の増加への対応と治療環境の改善を図るため、外来抗がん剤治療を行う治療室を14床から20床へ移転増床

# 参考図

## 本館

## 新棟



# 新棟フロアマップ



# 3F



- 女子トイレ
- 男子トイレ
- 多目的トイレ
- 階段
- エレベータ
- 受付

すこやか

# 4F



- 女子トイレ
- 男子トイレ
- 多目的トイレ
- 階段
- エレベータ
- 受付

すこやか

# 5F



- 女子トイレ
- 男子トイレ
- 男女トイレ
- 多目的トイレ
- 階段
- エレベータ
- 受付

外来化学療法センター